

\\ 10分でわかる！ \\

2026年3月IAASBボード会議 及び 2026年5月ボードコール

【説明者】

田邊 律也（当協会研究員）

坂口 正俊（当協会研究員）



IAASBの主なスケジュール（2025年～2027年）

プロジェクト名	2025年				2026年				2027年			
	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
監査証拠及びリスク対応	→				★	ED	→				承認	
ISA 500シリーズ		情報 収集	→		★	PP	→		ED	→		
ISRE 2410		PP	→		★	ED	5/6 ED公表	9/3 締切	→		承認	
2028年～2030年戦略及び作業計画			情報 収集	→	1/21 Survey	5/15 締切	→		CP	→		承認
複雑でない企業の監査(ISA for LCE)			情報 収集	PP	→		ED	→			承認	
ISA 540(改訂)の適用後レビュー計画			情報 収集	2/17 survey		6/15 締切	→					
テクノロジー	→				★	→						

PP: プロジェクト・プロポーザルの承認予定

ED: IAASBボードでの公開草案の承認予定 承認: IAASBボードでの最終承認予定

CP: コンサルテーション・ペーパーの公表予定

Survey: 公開協議の公表 締切: SurveyやEDのコメント募集期限

ISRE 2410

プロジェクトの概要

- ISRE 2410* は、2005年に発行されて以来、ほとんど改訂が行われていない。一方、ISRE 2410が公表されて以来、ISRE 2400（改訂版）の公表や、期中レビュー業務に関連するISAの改訂が行われたため、ISRE 2410の適用に問題や課題が生じている。
- 期中レビュー業務の目的に適合する形で、高まるステークホルダーの期待に対応し、また、独立監査人による、期中レビューの手の立案及び実施並びに報告の際の一貫した実務を促進することを目的に、ISRE 2410の現代化及び改訂を検討する。

2026年3月ボード会議の審議概要

- 以下の論点について議論が行われたのち、公開草案の承認審議が行われ、全会一致で承認された。
 - ▶ 重要性
 - 重要性の基準値の決定
 - ▶ 継続企業：評価期間
 - 継続企業の前提に関する経営者の評価期間（12か月）
 - ▶ 継続企業：期中レビュー報告書の記載
 - 監査報告書の記載に関する要求事項

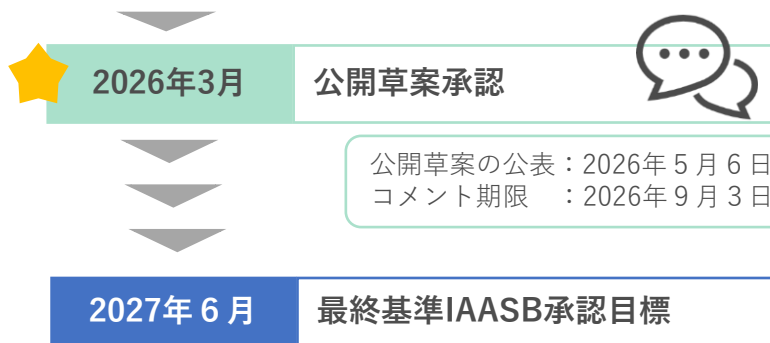
タイムライン

2024年9月：情報収集

2025年3月：ボード審議

2025年6月：プロジェクト・プロポーザル承認

2025年3月、9月、12月：ボード審議



* 国際レビュー業務基準（ISRE）2410「独立監査人が実施する期中財務情報のレビュー」

監査証拠及びリスク対応

プロジェクトの概要

- 規制当局を含めた利害関係者から、監査証拠とリスク対応について統合的に扱うプロジェクトが必要との意見を受けたことから本プロジェクトを開始した。
- ISA 500*1、ISA 330*2及びISA 520*3の改訂を同時に検討し、従来から行っていた監査証拠プロジェクトで扱っていた論点に加え、内部統制、テクノロジーに関連した論点が扱われている。

2026年3月ボード会議及び5月ボードコールの審議概要

- 主に以下の論点について議論が行われた。
 - ▶ 情報の信頼性に関する内部統制の運用評価手続
 - 監査証拠として利用することを予定する情報の適合性及び信頼性を評価するための内部統制の運用評価手続に関する要求事項をISA 500に新たに配置する案が議論された。
 - ▶ テクノロジー
 - テクノロジー・ツールの利用に関連する考慮事項をISA 500の付録として設ける案が議論された。
 - ▶ 改訂基準の草案の検討
 - 3月ボード会議で改訂基準の草案の全体が議論され、5月のボードコールで追加の議論が行われた。

タイムライン

2024年3月：情報収集

2024年9月：ボード審議

2024年12月：プロジェクト・プロポーザル承認

2025年3月、6月、9月、12月：ボード審議

★ 2026年3月：ボード審議

★ 2026年5月：ボード審議（ウェブ会議）



2026年6月

公開草案承認目標

意見募集期間：120日間を予定

2027年12月

最終基準IAASB承認目標

*1 ISA 500「監査証拠」

*2 ISA 330「評価したリスクに対応する監査人の手続」

*3 ISA 520「分析的手続」

ISA 500シリーズ

プロジェクトの概要

- テクノロジーの利用による影響を含め、現在の企業及び監査環境を反映するため、ISA 501^{*1}、ISA 505^{*2}及びISA 530^{*3}を改訂するプロジェクトを行うことを予定している。

2026年3月ボード会議の審議概要

- 以下の論点を検討するプロジェクト・プロポーザル案の検討が行われ、全会一致で承認された。

ISA 501	ISA 505
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 棚卸資産に関連した企業及び監査人によるテクノロジーの利用による影響 ▶ 棚卸立会の概念（リモート棚卸立会含む）の明確化 ▶ リスク・アプローチの概念との整合性の確保 ▶ 第三者の保管及管理下にある棚卸資産 ▶ 棚卸資産に関して入手する監査証拠の十分性及び適切性 ▶ 上記論点に関連した、職業的専門家としての懐疑心の必要性の強調 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 外部確認手続におけるテクノロジー及び仲介業者の利用による影響 ▶ 消極的確認 ▶ 外部確認手続に対応するアサーション ▶ 回答の信頼性 ▶ 外部確認手続実施の必要性の検討 ▶ 未回答及び確認差異 ▶ 上記論点に関連した、職業的専門家としての懐疑心の必要性の強調

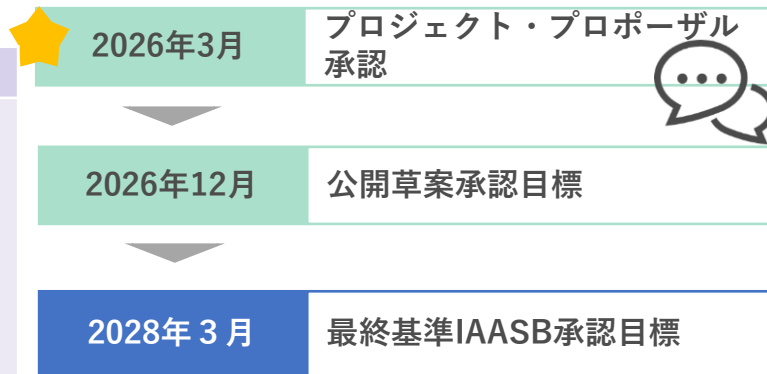
- ISA 501第4項及び第8項について議論が行われた。

- ▶ 「財務諸表において重要な場合」という条件節と、リスクアプローチの考え方との整合性

タイムライン

2025年6月：情報収集

2025年12月：ボード会議



*1 ISA 501 「特定項目の監査証拠」

*2 ISA 505 「確認」

*3 ISA 530 「監査サンプリング」

プロジェクトの概要

- IAASBは、テクノロジーに関する課題と、関連して考えられるIAASBのアクション案（基準設定、規範性の無い公表物の策定、モニタリングの継続等）を記録した「テクノロジーに関する課題と提案するアクションの一覧（Technology Catalogue of Issues and Proposed Actions）」を作成し、定期的に更新を行っている。

2026年3月ボード会議の審議概要

- テクノロジーに関連する事項に対処するためのアプローチを記載した文書が全会一致で承認された。
 - ▶ 本文書では例えば、以下の事項が説明されている。
 - 「テクノロジーに関する課題と提案するアクションの一覧」の役割及び更新のプロセス
 - 基準設定を行うか規範性の無い公表物の策定を行うか判断する際の考慮事項の例
 - 規範性の無い公表物の様式及び策定プロセス等
- 「テクノロジーに関する品質マネジメント- 規範性の無い公表物を策定するためのアクション案」が全会一致で承認された。
 - ▶ アクション案では、主に以下が記載されている。
 - 規範性のない公表物の目的・様式
 - 取り扱うトピック
 - 策定プロセス
 - 今後の予定

監査、監査以外の保証業務及びAUPに関する取組

[ホーム](#) > [協会について](#) > [協会の活動](#) > [監査、監査以外の保証業務及びAUPに関する取組](#)

監査

監査以外の保証業務及びAUP

国際監査・保証基準

解説動画等

ワークプラン及び適用スケジュール

公開草案等へのコメント



公認会計士とは

専門情報

一般企業の方へ

ニュース

ホーム > 協会について > 協会の活動 > 監査、監査以外の保証業務及びAUPに関する取組 > 国際監査・保証基準

国際監査・保証基準

> 国際監査・保証基準の基礎知識

国際監査・保証基準の基礎知識を紹介します。

> 国際動向紹介（監査・品質管理）

海外の監査・品質管理の動向を紹介するページにリンクします。

> 解説・会議報告等

IAASBが公表する国際監査・保証基準等の解説やボード会議、その他国際的な会議への参画について報告します。



●● 信頼の力を未来へ
jicpa

 日本公認会計士協会